

第30回有瀬図書館ギャラリー展
—神戸市埋蔵文化財センター出張展示—

2014.11.8(土)～12.6(土)

開催場所:神戸学院大学有瀬図書館

本館2階 エントランス展示コーナー

Meridian

神戸学院大学有瀬図書館
展示会通信第33号
2014年11月20日発行

博物館実習 I

古代の西区に 生きた人々と海



知っているようで 知らない埴輪



今回の展示は本学の博物館学芸員課程必修科目「博物館実習Ⅰ」を履修する学生たちの企画・制作によるものです。A班・B班ふたつのグループに分かれ、図書館展示スペースを利用した企画の立案から展示まで、すべて学生主体で行いました。人文学部前畑政善教授のご指導のもと、『神戸市埋蔵文化財センター』の全面的なご協力を得て完成まで至りました。

今回のテーマはA班が『古代の西区に生きた人々と海』、B班は『知っているようで知らない埴輪』です。どちらも古代の人々の生活に密着した内容となっています。土器や埴輪などの実物と解説パネルによって、当時の人々の暮らす光景が目の前に広がっていくようです。

皆様も展示を通して古代の人々の生活を感じてみてください。

* 開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

古代の西区に生きた人々と海

神戸学院大学有瀬キャンパスは、神戸市西区に位置しています。西区は内陸部にあるため、自然溢れる山や畑、川などを想像するでしょう。しかし、西区の遺跡からは「海」と密接に関連したものが発掘されています。縄文時代から弥生時代に移り、ムラやクニが形成され、生活様式が変わりました。それに伴い、新たな道具が生まれ始めました。

その代表例が蛸壺と製塩土器であり、本展はこれらを主として、西区の古代に生きた人びとと「海」の関係性を紹介します。

展示物 1

尖頭器



名の通り、先の尖った尖頭部を持つ石器です。材質には「チャート」や「サヌカイト」などといった「石」が用いられました。

サヌカイトの原産地は香川県や大阪府、奈良県だとされており、また、チャートの原産地は不明とされています。つまり、尖頭器に用いられていた材質は、交易によって各地域に搬入されていたと考えられています。

展示物 2

蛸壺



現存する最古の蛸壺は弥生時代に出土したものとされ、その発祥の地は瀬戸内東部だと言われています。

外敵から身を守り、獲物を狙うために泥や穴の中に潜むタコの習性を利用した蛸壺漁。蛸壺の穴に紐を通して繋げ、いくつかをひとまとめにして仕掛けます。弥生時代の物はマダコ漁やイダコ漁に使用されたと推測されています。

展示物 3

製塩土器



製塩土器は、岩塩や塩泉のほとんどない日本で、海水から塩を作るための道具として作られました。土器製塩は岡山県と香川県に挟まれた備讃瀬戸で成立し、その後、大阪湾沿岸から紀伊北部にかけて広がったと考えられています。

塩分濃度の高い塩水の中に入れて煮沸して使い、煮沸した後、製塩土器ごと割ってなかの塩を取り出すとの説もあります。

展示物 4

その他の展示物



知っているようで知らない埴輪

古墳時代を想像してみてください。テレビや携帯やパソコンなどの娯楽はない世界です。そんな時代の中で造られ、今に残っている物の中に『埴輪』があります。当時の人達は膨大な時間の中で埴輪という焼き物にどんな願いを込め、そして何に使用したのでしょうか。

今回の図書館展示では「知っているようで知らない埴輪」をテーマにしています。狭い展示スペースではありますが、神戸市埋蔵文化センターからお借りする実物の埴輪を展示し、埴輪の基本的な事柄と知っているようで知らない埴輪について解説します。

展示物 1

巫女型埴輪



関西と関東の巫女型埴輪の違いを比較しています。頭部が欠損していますが、胸部に膨らみがあることと、スカートのような服装をしていることから女性をかたどっていることがわかります。また、身に着けているものから巫女であることがわかります。

展示物 2

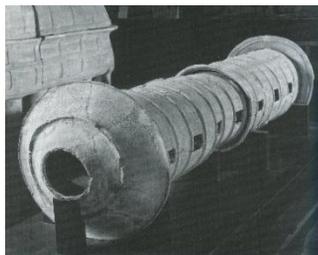
馬型埴輪



馬形埴輪は飾り馬と裸馬に分かれ、飾り馬は馬具で豪華に飾るため、豪族の権威を示すものといわれています。裸馬は簡単な轡(くつわ)と鞍の表現しかなく、駄馬、あるいは農耕馬としてすでに利用されていた可能性を示しています。

展示物 3

棺型埴輪



埴輪には棺として使われるものがあります。円筒埴輪や形象埴輪から再利用したものと、初めから棺として作られたものの2種類があります。

身分のあまり高くない人の棺は埴輪棺と呼ばれており、身分の高い人の棺は円筒棺と呼ばれています。

展示物 4

双脚輪状文形埴輪



装飾古墳に描かれた文様に「双脚輪状文」というものがありますが、展示の埴輪は、その形がよく似ていることから「双脚輪状文形埴輪」と呼ばれるもので非常に珍しいものです。何を表現したのかはよくわかりませんが、翳(さしば)(扇)の一種との説があります。



準備中
の様子



慎重に...!



展示
風景



編集後記

今回のギャラリー展は、すべて博物館実習の学生によって展示されています。事前に展示場所の確認に来たり、真剣に準備に取り組む様子がとても印象的でした。

そして、この「Meridian」も実習生による原稿をもとに発行しています。各班ごとに長時間かけて考えられたことが伝わってくるような、素晴らしい内容です。

A班・B班ともに、とても見応えのある展示に仕上がっています。実物の土器や埴輪、力作の解説パネルによる貴重な展示を、皆様も是非ご覧ください。

完成!!



神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第33号

2014年11月20日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078(974)4584（直通）E-mail：pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL：http://opac.kobegakuin.ac.jp/